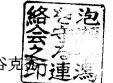
沖縄総合事務局 局長 様 開発建設部長様 港湾環境技術指導官様 港湾計画課長様 那覇港湾空港工事事務所長様

> 泡瀬干潟を守る連絡会 共同代表 内間秀太郎 小橋川共男 漆谷芽



泡瀬地区公有水面埋立事業、海上工事 8 月着工を直ちに中止するように要請します

事業者は、泡瀬干潟、海上工事を 04 年 8 月から再開するとしています。この工事再開に対して、次の理由(詳細は別添記者会見資料)により、直ちに中止し、泡瀬干潟(海域)を保全するよう要請するものです。

- (I) 泡瀬干潟、海上工事予定海域(水深 6 m) に、葉の長さが 40 c mのコアマモの群落、沖縄でこのような例は初めて。
- (Ⅱ)「被度50%以上の海草藻場はない」は、事実に反します。
- (Ⅲ) 日本自然保護協会は、7月23日、記者会見をしています。新たに確認された4種と、生息している場の保全を求めます。

日本自然保護協会 泡瀬干潟自然環境調査中間報告 <WWF・日興グリーンインベスターズ助成>

2003年7月に発足した「泡瀬干潟自然環境調査委員会」は、その調査結果の中間とりまとめを行いました。主な3点について報告します。

なお、23 日の記者発表のときには、泡瀬干潟の自然環境を分かりやすく表した 3 Dマップを配布いたします。

- 1. 泡瀬干潟は複雑な地形をもち、その環境に適応して多様な生物が生息している、日本を代表する生物多様性のホットスポットである。希少種や新種、新産種が埋立計画地に集中して分布している。
 - ・ 海草は、新(産)種2種を含め、11種が生育。既知の9種は、全でがレッドデータブック記載種。
 - ・ 海藻は、新種リュウキュウズタや、絶滅危惧 I 類のホソエガサ、クビレミドロが 生育。
 - ・ 貝類は、新種ニライカナイゴウナ、沖縄島新産のオサガニヤドリガイ、絶滅危惧 種スイショウガイなどが生育。
- 2. 新たに4種の海藻類の生育を確認。今後も調査が進むほどに泡瀬干潟の重要性が高まるのは必至。
 - ・海上工事着工後に新たに発見された種は、これで11種に。
 - ① カラクサモク:絶滅危惧種に相当。これまでヤツマタモクとされていた。
 - ② リュウキュウズタの変種:側葉の形成されないリュウキュウズタ。
 - ③ クビレズタ(ウミブドウ)の変種:球状の葉がない。
 - ④ 水深 6mのコアマモ:水深 6mに生育することは本州でも稀。沖縄では報告 例がない。
- 3. シギ・チドリ類の種数, 個対数が多く, ムナグロの越冬地としては日本最大.
 - ・ 越冬期の2月の調査では、19種 1160 羽が記録され、優占種は、ムナグロ(34.1%)、 メダイチドリ(32.2%)、シロチドリ(6.7%)、ハマシギ(6.6%)の4種が優占 種であった。
 - ・ 春の渡りの 4 月の調査では、24 種 1268 羽が記録され、優占種は、ムナグロ (67.6%)、メダイチドリ (12.1%)、キョウジョシギ (7.6%) の 3 種が優占種 であった。

参老・

事業者の見解や対応状況は、「2004.8.02 記者発表資料 中城湾港(泡瀬地区)公有水面埋立事業 における仮設橋梁工事について」を参照して下さい。